

長良川河口堤防30周年記念国際シンポジウム

洛東江河口の帰還

洛東江河口汽水生態系の復元と河口堰開放の歩み

日時 | 2026年3月15日（日）

場所 | 日本愛知県長良川河口堰記念館

発表概要

洛東江河口 汽水生態系 復元戦略と実行

01 洛東江河口堤防の現状

02 釜山市の役割 ① 開放宣言

03 釜山市の役割 ② 先制的な塩害対策

04 釜山市の役割 ③ 官民ガバナンス

05 釜山市の役割 ④⑤ 実務協議会・民間委託

06 釜山市の役割 ⑥ テジョ水門改善事業

07 洛東江河口堰開放ロードマップ

08 結論及び今後の課題

洛東江河口堰の現状：建設背景と変化

洛東江河口堰の現状

建設背景と現状



河口堰の現状

1987年建設、洪水調節・用水確保の成果 vs 出現魚種の単純化・植生の変化による生態系破壊問題の顕在化



釜山市の役割

科学的モニタリングに基づく段階的開放の要求及び政策連携、
2017年から試験開放を推進



開放ロードマップ

上流15km以内の安定的な汽水域形成を目標に
常時開放拡大推進



洛東江河口堰の全景 | 1987年に建設された洛東江河口堰は、長さ2.3km、高さ8mの大規模水利施設として洪水調節と用水供給機能を担ってきたが、汽水生態系の分断問題が継続的に提起されてきた。

釜山市の役割 ① 洛東江河口堰開放宣言と推進過程

河口堰の現状

1987年竣工後28年間閉鎖、生態系断絶及び緑藻問題深刻化

釜山市の役割

2015年開放宣言、円卓会議・民間委託・国政課題選定を主導

開放ロードマップ

2015年宣言→2017年国政課題→2019年試験開放→2022年常時開放



釜山市の役割② 先制的な塩害制御基盤の整備

塩害制御3段階推進体系

河口堰開放時の海水流入による農・工業・生活用水の塩分濃度リスクに対応するため、事前-実証-運用の3段階塩害制御体系を構築した

事前段階

予警報及び施設補強

塩分予警報システム

リアルタイム塩分濃度モニタリング及び予測システム構築

取水戦略の多様化

工業用水取水源移転及び代替水源確保

実証段階

試験運用及びモニタリング

試験開放運営

段階的開放実験による塩分拡散パターンの分析

科学的モニタリング

水質、塩分濃度、生態系変化の総合モニタリング実施

現場対応体制

塩害発生時の即時対応及び被害最小化

運営段階

常時開放規定の確立

水門等の施設改善

テジョ水門改善事業実施

常時管理体制

塩害常時モニタリング及び自動対応システム運営

事後評価

塩害管理の成果評価及び持続的改善

釜山市の役割③ 官民ガバナンス構築

河口堰の現状

利害関係が複合的（農・漁・環境・用水）であるため社会的合意が重要

釜山市の役割

2015年円卓会議→2019～2023年 官民協議体運営（透明性・参加性強化）

開放ロードマップ

ガバナンスの常態化による段階的開放意思決定及び紛争管理の体系化

ガバナンス発展過程

- 2015**
洛東江河口堰開放円卓会議開催
多様な利害関係者の参加開始
- 2019**
洛東江河口堰運営改善及び生態復元官民協議体構成
- 2020～2022**
定期会議開催
試験開放モニタリング及び評価共有
- 2023**
常時開放拡大方案協議
透明な意思決定体制の確立



釜山市の役割 ④⑤ 実務協議会の運営及び民間委託

河口堰の現状

統合水管理実施のための実務レベルでの常時調整が必要

釜山市の役割

河口環境管理実務協議会の構成・運営、2016年～民間委託（洛東江河口汽水生態系復元協議会）による市民結集

開放ロードマップ

実務協議-市民社会連携によるモニタリング-広報-参加拡大基盤の整備

推進体系の発展過程

- 2016**
洛東江河口汽水生態系復元協議会の民間委託開始
全市民結集推進
- 2019**
洛東江河口環境管理実務協議会構成
関係機関常時調整体制整備
- 2020～2023**
実務協議会の定期運営
モニタリング結果の共有及び対応
- 現在**
市民社会-行政-専門機関連携強化
参加・広報基盤の拡大



釜山市の役割 ⑥ テジョ水門改善事業の推進状況

釜山市の役割 ⑥

テジョ水門改善事業



河口堰の現状

全面開放の条件の一つが上流のテジョ水門の機能改善・再架設であり西洛東江の安定的な塩分制御基盤が必要



釜山市の役割

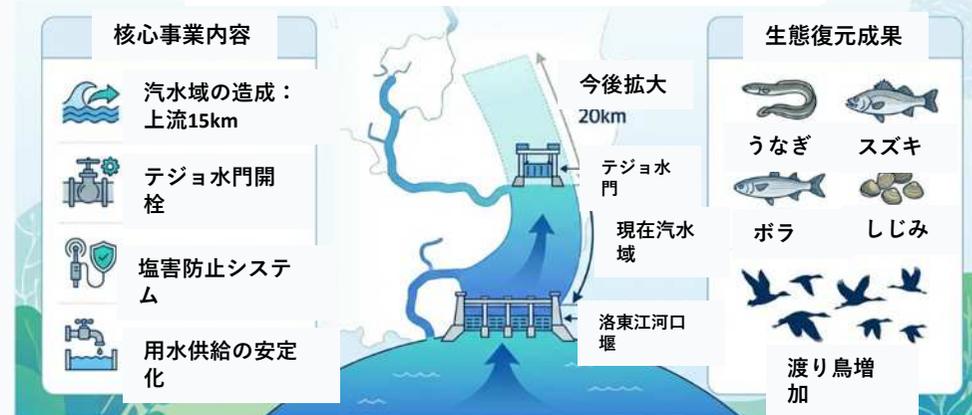
テジョ水門（取水門／通船門）改善事業の推進、国費273億ウォン確保、2027年7月竣工予定で段階的に実施中



開放ロードマップ

テジョ水門の完工と連動し常時開放範囲拡大を推進、常時開放の物理的条件充足を検討

洛東江河口堰汽水生態系復元事 テジョ水門開放により復元範囲拡大



洛東江河口堰防汽水生態系復元事業 | 核心事業：汽水域造成（上流15km）、テジョ水門改善、塩害防止システム、用水供給安定化 / 生態復元成果：ウナギ・スズキ・ボラ・ハマグリ回復、渡り鳥増加

洛東江河口堰開放ロードマップ（2026年業務報告に基づく）

河口堰の現状

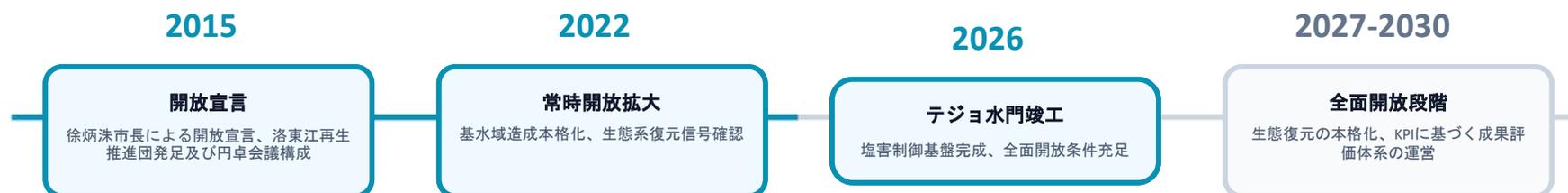
2017～2021年 試験開放・基礎調査、2022年～ 常時開放拡大及びモニタリング

釜山市の役割

2025年準備（取水戦略・塩害軽減・運営規定整備）、2026年テジョ水門竣工運動執行

開放ロードマップ

2026年 条件付き全面開放検討→2027～2030年 段階的転換・生態復元本格化



参考 | 本ロードマップは2026年気候エネルギー環境部業務報告（四大河川堰処理ロードマップ）及び関係省庁協議内容を基に作成されました。段階別推進日程はモニタリング結果及び利害関係者協議により調整される場合があります。

結論及び今後の課題

2026年開放拡大

開放日数 前年190日 → 200日へ10日増加。
年間通じ常時開放体制の安定化及び汽水域の持続的維持

汽水域の復元本格化

サケ・アユ等の回遊性魚種復元推進。汽水域15kmを維持し、生態系の回復力を強化

四大河川の再自然化推進

河川の連続性回復による健全な生態河川形成

釜山市の持続的推進課題

生態モニタリング強化

汽水域生態系の変化に対する長期モニタリングの継続及び科学的データの蓄積

官民協力体制の維持

民間委託事業推進による洛東江河口汽水生態系協議会の運営

インフラ整備

2027年のテジョ水門完成により汽水域を20km拡大し常時開放条件を満たす